

日本損害保険協会の2024年度 地震保険の加入促進取組

令和7年5月23日

一般社団法人 日本損害保険協会

- 地震保険加入促進のため、まず、「地震リスクにさらされていること」に気付いていない人を中心に、広く一般消費者に「日本全国どこでも地震等による被害を受ける可能性があること」を認識してもらう。
 - 次に、地震等への経済的な備えの手段として、一般消費者に「地震保険」を紹介し、その効用を周知することによって「地震保険加入の必要性」を認識してもらい、加入行動につなげる。
 - 具体的には、訴求ポイント（※）を明確にしたうえで、付帯率が低い地域などターゲットを絞った取組みを実施する。
- （※）一般消費者、住宅所有者、賃貸住宅居住者、マンション管理組合

防災イベント「親子で学ぼう、地震への備え」の開催 ～阪神・淡路大震災から30年～

- 2025年1月13日(月・祝)に神戸ハーバーランド スペースシアターで開催。
- 「VR 地震シミュレーター体験」、防災グッズの作成を体験できる「防災ワークショップ」など、地震への備えについて、親子で楽しみながら学べるコンテンツを多数用意し、来場者に体験いただいた。
- ステージでは、トークイベント「いま、語ろう。地震と、地震後のこと」を実施。9歳の時に阪神・淡路大震災で被災した相武 紗季 氏(俳優)、同震災での経験を語り継ぐ活動をしている大濱 義弘 氏(NPO 法人神戸の絆2005 副代表)、城田 宏明(当協会会長)の3名が登壇し、当時の記憶や体験を振り返るとともに、今後の地震への備えについて考えた。



トークイベントの様子



体験型コンテンツの様子①



体験型コンテンツの様子②



体験型コンテンツの様子③

2. 損害保険協会の消費者への理解促進の取組み（2024年度）

地震防災・減災シンポジウムの開催 ～阪神・淡路大震災から30年～

- 12月14日(土)に神戸市中央区の人と防災未来センターこころのシアターで、同センターと共催。
 - 第一部は対談形式で、山崎 登 氏（国土館大学名誉教授、元NHK 解説委員）がコーディネーターを務め、河田 恵昭 氏（人と防災未来センター長、関西大学特別任命教授、京都大学名誉教授）と室崎 益輝 氏（兵庫県立大学名誉教授、神戸大学名誉教授）が、阪神・淡路大震災発生当時の状況や同震災が社会に突き付けた課題、この30年で実現できたこと・できなかったこと、将来の日本の防災に向けての提言等を語った。
 - 第二部のパネルディスカッションでは、災害に強い街づくりや地域の防災力の高め方、防災・減災の今後のあり方等について、それぞれの立場で防災・減災に長年携わってきた経験等をもとに語り合った。
- <パネリスト>
- ・澤田 雅浩 氏（兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科准教授）
 - ・大牟田 智佐子 氏（毎日放送報道情報局次長、兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科客員研究員）
 - ・坂本 誠人 氏（人と防災未来センター特別研究調査員、元兵庫県防災企画局長）
 - ・大知 久一 氏（日本損害保険協会専務理事、災害の自分事化協議会委員、NIPPON 防災資産選定委員）



第1部の様子



第2部の様子

2. 損害保険協会の消費者への理解促進の取組み（2024年度）

「ぼうさいこくたい 2024」への参画

- 熊本市の熊本城ホールで開催された、内閣府等主催の「ぼうさいこくたい2024」に参画し、10月20日(日)に当協会主催のセッションを実施。
- 市古 太郎 氏(東京都立大学教授)から「事前復興にも活かされる 熊本地震でのくらし・すまい・まちの回復」と題して基調講演。
- 続くトークセッションでは、「事前復興とは？」「事前復興に個人・家族単位でできる備えとは？」「“よい復興”につながる事前復興とは？」をテーマに意見交換を行った。

＜トークセッション出演者＞

- ・市古 太郎 氏（東京都立大学教授）
- ・武田 真一 氏（フリーアナウンサー／元NHKアナウンサー）
- ・村上 美香 氏（フリーアナウンサー／元熊本県民テレビアナウンサー）
- ・永島 由菜 氏（熊本県民テレビアナウンサー）



トークセッション



会場の様子

2. 損害保険協会の消費者への理解促進の取組み（2024年度）

テレビCMの作成

「しんごとじしんご」篇

- 地震保険が単なる建物や家財の修繕のための保険ではなく、地震後の生活再建において重要な役割を果たす保険であることを訴求。

「しんごとじしんご」篇



ウェブ動画の作成

「しんごとじしんご～火災保険～」篇

- 地震による火災の被害は火災保険では補償されないという事実を伝え、地震保険で備えることの大切さを気づかせる内容。

「しんごとじしんご～火災保険～」篇



「しんごとじしんご～賃貸者向け～」篇

- 地震保険の保険金が、壊れた家電の買い替えや引っ越しにかかる費用など様々な用途に使え、賃貸者でも地震後の生活に役立つことを伝える内容。

「しんごとじしんご～賃貸者向け～」篇



2. 損害保険協会の消費者への理解促進の取組み（2024年度）

縦型ショート動画の作成

- 地震後にかかる費用を中心に、地震保険の必要性について全国向けに短時間で分かりやすく説明。
- 地震保険の付帯率の低いエリア（北海道・佐賀県・長崎県・沖縄県）にも地震後に対する関心を持ってもらうため、各地域の特性に合わせた、地域別縦型ショート動画も公開。



縦型ショート動画

地域別縦型ショート動画



2. 損害保険協会の消費者への理解促進の取組み（2024年度）

各地域での防災連携取組み

- 地方自治体や関係団体等と連携し、各地域でイベント出展やセミナー開催を通じて、消費者向けにリスク啓発と地震保険の加入促進を実施。

「ほっかいどう防災ひろば in チ・カ・ホ」への出展（北海道）



「青森県総合防災訓練」への出展（青森県）



第1回いばらきの地震・風水害に「備える」を考える日 in つくば（茨城県）



特別防災セミナー（新潟県）



いしかわ地震防災セミナー（石川県）



福岡県西方沖地震から20年メモリアル講演会（福岡県）



代理店の募集活動を支援する取組み

- 各地の損害保険代理業協会等と連携し、全国6か所で代理店向けセミナーを開催。
（北海道、東京都、神奈川県、滋賀県、山口県、鹿児島県）
- マンション管理業協会と連携し、地震保険の特設サイトやチラシ等を同協会の会員に紹介。
- マンション管理業協会会員向けセミナー（北海道）に講師派遣し、地震保険の概要やマンション共用部分の地震保険の必要性等を説明。

代理店セミナー（東京都）



代理店セミナー（神奈川県）



代理店セミナー（山口県）



2. 損害保険協会の消費者への理解促進の取組み（2024年度）

2023年度作成のデジタルコンテンツの継続公開

「地震こわれる診断 VR」

- 居住階（1 階、5 階、10 階）と震度（5 強、6 弱、6 強）を選択すると、部屋の中の揺れや家財の被害状況のシミュレーションを VR 動画でリアルに体感できるコンテンツ。シミュレーションにあたっては、国立研究開発法人防災科学技術研究所の実験データに基づき算出。

「マンション管理組合向け地震リスク相談室」

- 選択したマンションの耐震基準と免震構造に応じて、震度7規模の地震が発生した場合のマンションを取り巻く様々なリスクを確認できるコンテンツ。マンション構造による被害リスクのほか、管理組合でのトラブル等のリスクについても紹介。

地震こわれる診断VR



マンション管理組合向け地震リスク相談室



3. 保険会社の消費者への理解促進の取組み

リアルタイム被害予測ウェブサイト・アプリ「cmap（シーマップ）」…あいおいニッセイ同和損保社

- 地震をはじめ自然災害による被災建物数をリアルタイムで予測し公開するウェブサイトおよびアプリ。被災情報の周知に加え、土砂災害や津波想定ハザードマップを表示し、お住まいの地域のリスクに関する情報を提供することで災害への備えを啓発。

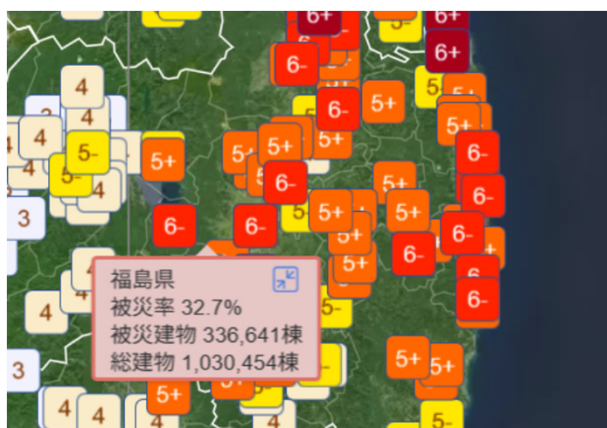
「かんたんリスクマップ」…東京海上日動社

- 現在地や自宅などの住所から、地震や水害のリスクに関する情報を把握することができるツール。保険加入者に限らず、誰でも利用可能。

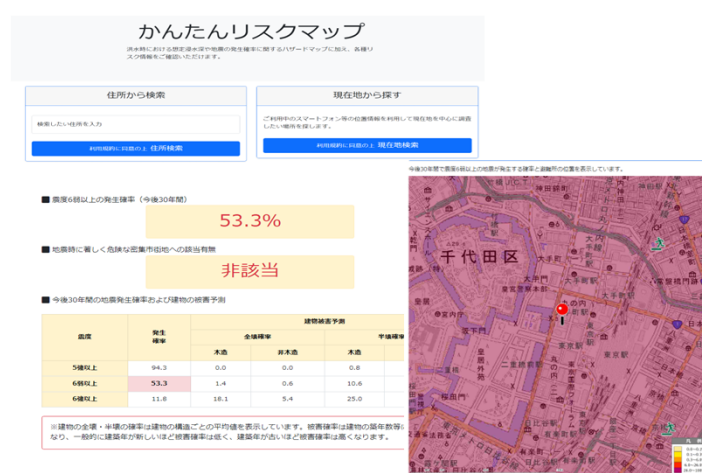
「THE すまいのハザードマップ」…損保ジャパン社

- 公的機関等の各種データに自社が保有する保険金支払データを加えた総合的な災害リスクマップ。住所情報をもとに、顧客に対してその場所で生じる地震をはじめ自然災害リスクの情報を提供。

「cmap(シーマップ)」(あいおいニッセイ同和損保社)



「かんたんリスクマップ」(東京海上日動社)



「THE すまいのハザードマップ」(損保ジャパン社)



3. 保険会社の消費者への理解促進の取組み

「タッフィー&ハッピーと一緒に防災について学ぼう！」…あいおいニッセイ同和損保社

- 防災に関するお役立ち情報について、地震をはじめ災害別に「災害が起こると」「備えておこう」「いざというときには」の3つのステップに分け、自社キャラクターを用いて親しみやすく、かつ分かりやすく紹介

「あしたの笑顔のために」…東京海上日動社

- 地震発生時の対応や、備え、メカニズム等、災害についての知識を分かりやすく学べるコンテンツ。「災害のきづき～体験者から学ぶこと～」も掲載し、より自分事として捉えられるよう工夫。

「知ろう・備えよう災害対策」…三井住友海上社

- いざというときに役立つ、災害についての知識を、キャラクターとともに一緒に学ぶコンテンツ。地震の他、台風・落雷など各種自然災害に対する豆知識や備えについて学ぶことが可能。

「タッフィー&ハッピーと一緒に防災について学ぼう！」
(あいおいニッセイ同和損保社)



「あしたの笑顔のために」(東京海上日動社)



「知ろう・備えよう災害対策-地震篇-」(三井住友海上社)



3. 保険会社の消費者への理解促進の取組み

- 各社の創意工夫のもと、地震保険に対する消費者の理解促進のため、保険募集時にパンフレットやチラシ等を用いて地震保険の内容や必要性について案内。
- 過去の地震の発生状況や南海トラフ地震の可能性に言及したり、家財の補償についても訴求したりするなど、各社の創意工夫を図っている。

「地震の補償を充実させませんか？」チラシ
(あいおいニッセイ同和損保社)

「地震保険のご案内」のチラシ
(東京海上日動社)

「備えていますか？地震保険」チラシ
(三井住友海上社)

- 2024年度に引き続き、付帯率が低い地域などターゲットを絞った取組を実施予定。
- オンラインでの情報発信やデジタルコンテンツの活用など、時代の変化に適合した媒体・手法による取組を推進予定。
- 取組みにあたっては適宜、南海トラフ地震臨時情報などを意識して、平時からの加入を促すメッセージ（※）を盛り込む。

（※）例：加入手続きには一定時間がかかる場合があり、南海トラフ地震臨時情報発表時など、すぐに加入できないことがあります。